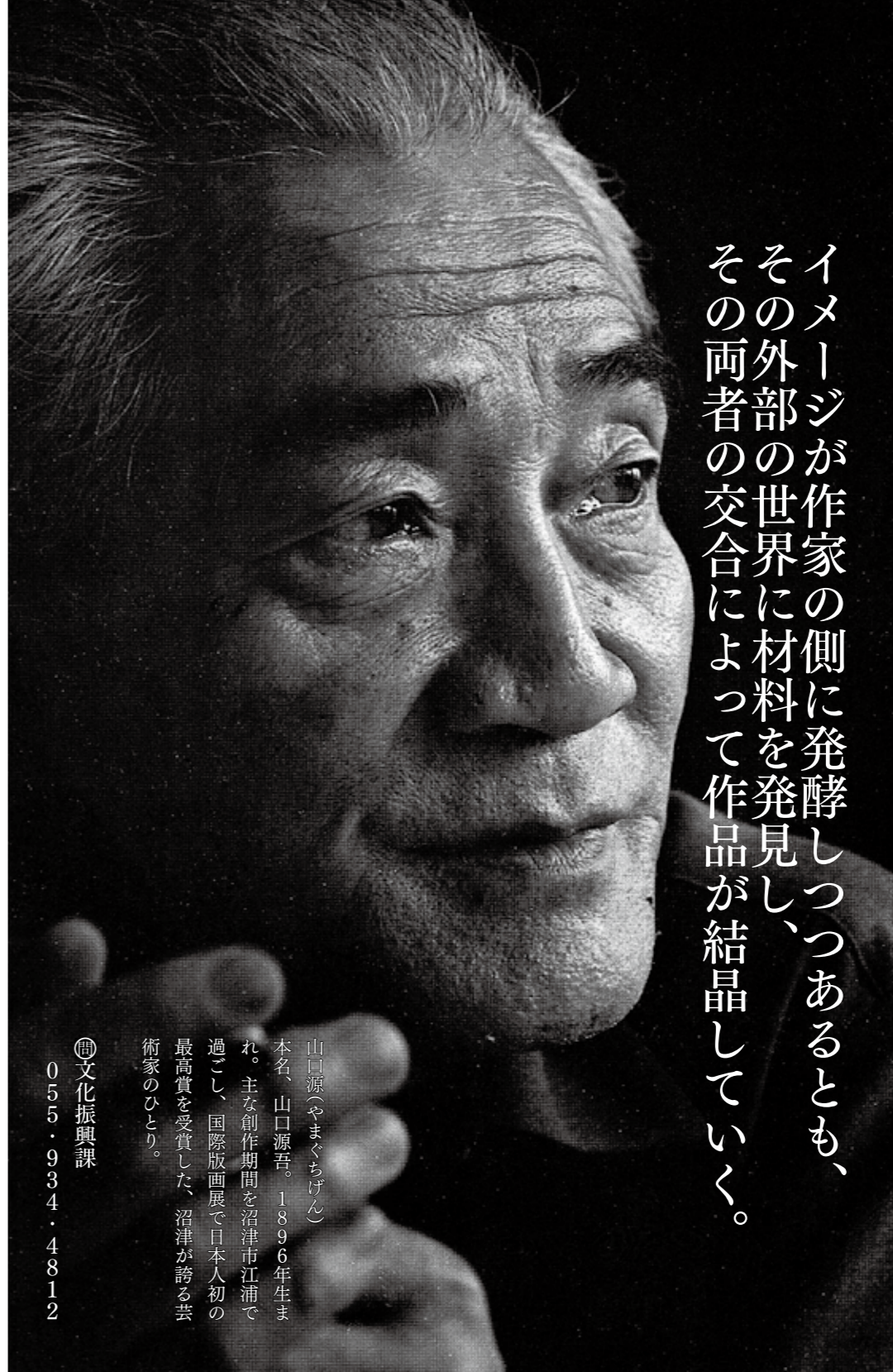


特集

孤高の版画家

山口源

イメージが作家の側に発酵しつつあるとも、その外部の世界に材料を発見し、その両者の交合によって作品が結晶していく。



山口源(やまぐちげん)
本名、山口源吾。1896年生まれ。主な創作期間を沼津市江浦で過ごし、国際版画展で日本人初の最高賞を受賞した、沼津が誇る芸術家のひとり。

文化振興課
055・934・4812

創作版画の先駆者

市民文化センター小ホールの織帳は、本市が誇る世界的な版画家山口源の「能役者」という版画作品をもとに制作されたものです。山口源は多くの美術団体の振興に寄与し、要職を歴任しました。また、海外の高名な美術展に出品し、何度も上位賞を受賞する等、国内外で高く評価されている有名な版画家です。

今回の特集では、市民の皆さんに知っていただきたい、そして誇っていただきたい山口源の魅力を紹介します。

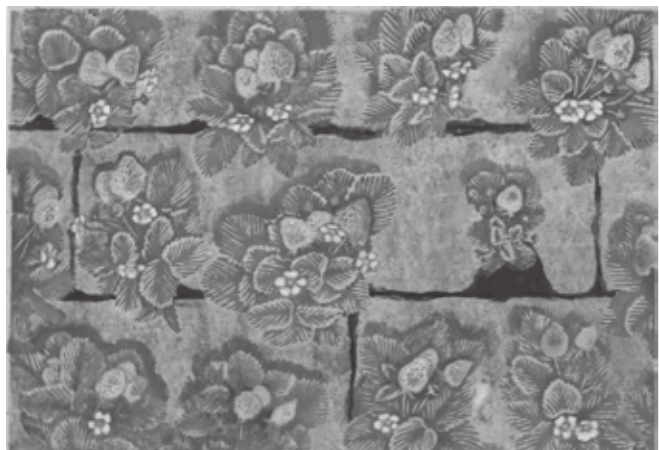
巨匠が沼津で残した足跡

国道414号線、東江の浦バス停留所の海側にアトリエ跡と書かれた碑がひっそりと佇んでいます。現在の富士市に生まれた山口源は、1944年に妻の郷里である沼津市江浦に移り住みました。以後、その生涯を閉じるまでこの場所に居住し、創作版画の旗手と評価されている恩地孝四郎の厚遇を受け、仲間とともに版画の創作に取り組みました。

さらには装丁家としても活躍し、本市と縁の深い井上靖をはじめ、林美美子や松本清張など文筆家たちの作品の装丁も手がけました。創作期が円熟の域に入ると、物



山口作品を収蔵しているモンミュゼ沼津(沼津市庄司美術館)。入館料は大人200円、小人100円(市内小・中学生は無料)。月曜日・祝日の翌日・年末年始は休館。本字下一丁目900-1 ☎055-952-8711



【右上】モンミュゼ沼津に収蔵されている、山口源の代表作のひとつ「能役者」。木片を使い、禅の境地を表現した作品で、市民文化センター小ホールの織帳にも使われています。【左上】第17回国画展で褒章を得た1942年の「石垣苺」。実物は色彩が豊かな作品です。【左中】モンミュゼ沼津には、山口源が使用した版画の道具や版木など貴重なものも収蔵・展示されています。【左下】アトリエ跡には記念碑とともに、山口源が詠んだ詩のひとつ「朝のバラ」が刻まれています。



体版画という独特の手法によって東洋の価値観を描き、その実力は世界でも高く評価されています。海岸で拾った木片を画材に使用し、感性を全面に押し出した木版画作品「能役者」が1958年に開催されたスイス・ルガノ国際版画ビエンナーレでグランプリを受賞し、山口源は国際的な版画展でグランプリを受賞した初の日本人となりました。江浦で創作活動に励んだことや流木が使われていることを鑑みると、「能役者」に限らず、沼津の景色が山口源に何かしらの着想を与えたことは想像にかたくありません。

山口源の没後、遺族の意向により遺品・遺作は市に寄贈され、数々の資料とともに、モンミュゼ沼津(沼津市庄司美術館)に収蔵されています。モンミュゼ沼津の荻生副館長は「抽象的な作品が多く、山口源の世界観を理解するのは難しいと思います。作品に接し、初めから解らないと決めつけずに、その中に溶け込んでいくと、山口源の意図する世界が徐々に見えてくると思います。ゴッホやゴーギャンに代表される印象派の巨匠たちが浮世絵を好んだように、日本の版画は世界的にも質が高いのです。日本の版画作品を誇る心を大切にしてください」と教えてくれました。